

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	イオン感応性を原理とする超高感度ナノレーザバイオセンサ
研究代表者	馬場 俊彦（横浜国立大学・大学院工学研究院・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>低濃度タンパク質や癌マーカーの高感度バイオセンサを開発してきた応募者であるが、更なる超高感度化により、バイオや医療への広汎な応用を計ろうとする意欲的な研究である。要素技術は応募者によって既に確立されているので、本研究では、原理の物理的な理解を深めることで一層の超高感度化を図る予定である。これにより波及効果の高い実用化しやすい技術になると思われ、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>